

# 愛知県におけるグループホーム、ケアホームの実態

## —食堂とリビングにおける過ごし方—

小川 正光, 林 綾華\*

### 1. はじめに

わが国の福祉は、これまで施設中心福祉であった。近年になって「障害のある人もない人も共に暮らせる地域社会」というノーマライゼーション等の福祉思想が広まり、地域の中で当たり前で暮らすことを可能とする福祉システムが求められる状況にある。地域生活への移行を進めていくためには、24時間を同じ施設で過ごすのではなく、障害のある人が、日中活動と居住の支援を自分で組み合わせて利用できるよう、昼のサービス（日中活動支援）と夜のサービス（居住支援）に分けること（昼夜分離）が重要とされ、脱施設化が進められている。そして、障害のある人が地域で安心して暮らすことができるよう、単身での生活が困難な人が共同して自立した生活を営む場として、グループホーム（共同生活支援）やケアホーム（共同生活介護）が徐々に供給されている。

現在、知的障害者（在宅）の住まいの状況<sup>1,2)</sup>をみると、85.7%が「自宅で家族と同居」、次いで6.6%が「グループホーム」で、希望住居を見ると、「親と同居」と「兄弟姉妹と同居」を合わせて38.5%、「夫婦で暮らしたい」が12.9%、「グループホーム」が12.8%であり、「グループホーム」に対する希望が増加傾向にある。また、身体障害における施設入所者の割合は2.4%、精神障害における入院患者の割合は10.3%に対して、知的障害における施設入所者は23.4%となっており、脱施設化が図られるにあたり、知的障害者用のグループホームは、これから特に需要があると考えられる。

本研究では、事例において居住者及び世話人の住居空間の使い方を調査し、その特徴を通して、使い方に対応した空間の適切なあり方を検討する。特に、共同生活で交流の場となるリビング、ダイニング、キッチンに焦点をあて、リビング、ダイニング、キッチンの形だけが異なる2つのグループホームを取り上げ、比較を通じて、望ましいあり方を検討する。そして、今後ますます増えると考えられるグループホーム、ケアホームの方向性を示唆することを目的とする。

### 2. 研究方法

グループホーム、ケアホームとして使われる建物としては、①借家をそのまま使う場合、②借家をリフォームして使う場合、③公営団地や民間のマンションなどの部屋を借りて使う場合、④新築の場合がある。最近では、防災設備の規定が厳しくなっているため、今後、新築のグループホーム、ケアホームが増加してくると考えられる。また、現在、脱施設化が図られている。

したがって、本研究では、新築で、施設からグループホームに移り住んだ入居者が多いグルー

---

\*家政教育講座・学生

プホーム、ケアホームに焦点を当てた実態調査を行った。

本研究では、社会福祉法人愛知玉葉会に協力を依頼した。そこから、2つのグループホーム（グループホーム藤川、グループホーム第三藤川）を選定し、グループホームで過ごす入居者の、空間の使い方とその特徴を明らかにした。

## 2.1 グループホームの実態調査

各グループホームの間取り、入居者の基本属性を資料及びアンケートより調査した。

## 2.2 住み方実態調査

各グループホームに対して、休日1日、平日1日滞在し（表1）、世話人及び入居者の行動と場所を観察し、10分ごとに記録した。

表1 調査日時

ホーム名	調査実施日	調査時間	出勤の有無
グループホーム藤川	平成23年12月29日	6:30~19:50	なし（休日扱い）
	平成24年1月12日	6:30~8:30 16:00~19:50	あり（平日扱い）
グループホーム第三藤川	平成23年12月30日	6:30~19:50	なし（休日扱い）
	平成24年1月4日	6:30~8:30 16:00~19:50	あり（平日扱い）

## 3. グループホームの実態調査

### 3.1 住宅・敷地の特徴

どちらのグループホームも、木造2階建ての住宅であり同一地域に立地し、設置、運営団体が同一である。

敷地面積は、グループホーム藤川の方が153.5㎡広い（表2）。これは愛知玉葉会として初めて建設するグループホームということで、よりよい場所を選定した結果である。そのこともあり、グループホーム藤川では、庭の敷地が広く、庭内で活動するには十分の敷地がある。

表2 建物・敷地面積

		グループホーム 藤川	グループホーム 第三藤川
建物	構造	木造 地上2階建て	木造 地上2階建て
	述べ床面積	150.3㎡	154.44㎡
	利用定員	6名	6名
敷地面積		287.61㎡	134.03㎡

### 3.2 住宅平面・設備の特徴

居室以外の設備は、共同で使われており、食堂、台所、浴室、洗面所、便所がある。

グループホーム藤川とグループホーム第三藤川の構造は非常に似ている。2階の構成は同一であり、1階についても居室の構成は同一である。ただし、食堂および台所の規模と構成に違いがみられる。

#### 4. 入居者の生活実態分析

住み方実態調査の10分ごとの記録を、一定の時間ごとに入居者と世話人（食事準備時間のみ）の行動をまとめたものを集計し、集計した行動分布図と、それを基にグラフを作成し、分析した。

##### 4.1 食事の準備時間の集計と分析

食事の準備時間を集計し、入居者の食事の準備に関する行動と、各グループホームの特徴を検討した。

###### (1) 食事の準備時間の定義

食事の準備は、料理をする、食べ物を取りわけ、食器を運ぶなど食事にかかわる行動を指す。世話人または入居者が、1人でも食事の準備をしている場合には、その時間を集計した。食堂および台所に人がいても、誰も食事の準備をしていない時間は除いている。

###### (2) 食事の準備時間の分析

グループホーム藤川において、休日と平日、それぞれの朝食準備時間と夕食準備時間、グループホーム第三藤川において休日と平日、それぞれの朝食準備時間と夕食準備時間を集計した。

どちらのグループホームでも、朝食準備の様子は、平日と休日に変化は見られなかった。夕食準備については、休日か平日かによって、食堂および台所に集まる人数に変化が見られるが、これは集計した時間の長さによると考えられる。よって、それぞれのグループホームの全ての食事準備時間を集計し、比較した。

グループホーム藤川では、食事の準備時間は、入居者は主に食堂及び台所部分におり、キッチン、ダイニング、リビングに分散していた。一方、グループホーム第三藤川でも、入居者は食堂及び台所部分にいるが、リビングにいる入居者は、グループホーム藤川と比べると少ないことがわかった。キッチン及びダイニングにいる入居者は、食事の準備をしている、または食事の準備に興味を持っている状態である。よって、グループホーム第三藤川は、グループホーム藤川よりも、食事の準備に興味をもちやすい構造であると考えられる。

##### 4.2 自由時間における食堂での過ごし方の分析

食堂内の入居者の行動と、食堂の使い方を知るために、自由時間内の食堂での過ごし方を調べ、食堂部分での動きのみを集計するとともに、間取り図内に入居者の位置と行動を記号で記した(表3)。

###### (1) 自由時間の定義

入居者が、食事やおやつを食べている時間、食事を準備している時間、散歩をしている時間を除いた時間を集計した。食事をしている入居者がいても、1人でも食事以外のことをしている場

合は自由時間とした。ただし、食事の準備については、1人でも食事準備をしている場合は自由時間とはしない。

## (2) 食堂での過ごし方の分析

グループホーム藤川での、休日の自由時間内は、テレビを見て過ごすことが最も多く、次にパズルやぬりえなどの遊びである。また、リビングにおいても、ダイニングにおいても、文字を書く作業は10%前後行われている。また、リビングにはダイニングの倍以上の人数が集まっていることもわかる(図1)。

さらに、リビングをテーブル付近とソファに分けてグラフ化すると、ソファでは、主にテレビを見る事が多く、テーブル付近では文字を書く作業やパズルや編み物がよく行われていることがわかった。ソファは、テレビに対し直線上に位置し、見やすいため、テレビを見たい入居者はソファに集まると考えられる。テーブル付近は、テレビが近いため、テレビを見る入居者は多いが、テーブルがあるため、文字を書くなど、テーブルが必要な作業を行うことも多いようである(図2)。

次に、ダイニングを、テーブル付近とソファに分けてグラフ化した。ソファでは、テレビを見るという行動が最も多く、テーブル付近では、パズルやぬりえをするなどの遊びの行動が多くみられた。

ダイニングのテーブル付近では、リビングと比較してテレビは見にくくなるもの、パズルやぬりえには適しており、このような結果が出たと考えられる(図3)。

平日のグループホーム藤川については、

表3 行動内容を表す記号

記号	行動内容
A	食事の準備をする
B	飲む, 食べる
C	テレビを見る
D	文字を書く, 宿題をする
E	新聞, 広告, 雑誌などを読む
F	パズル, ぬりえ, ボードゲームなどをして遊ぶ
G	洗濯物をたたむ
H	薬を飲む, 保湿クリームを塗る, 爪を切るなどボディケアする
I	その他

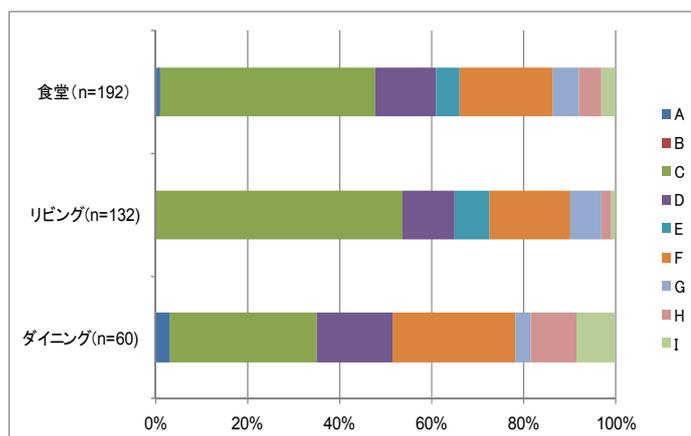


図1 グループホーム藤川(休日)における食堂での過ごし方

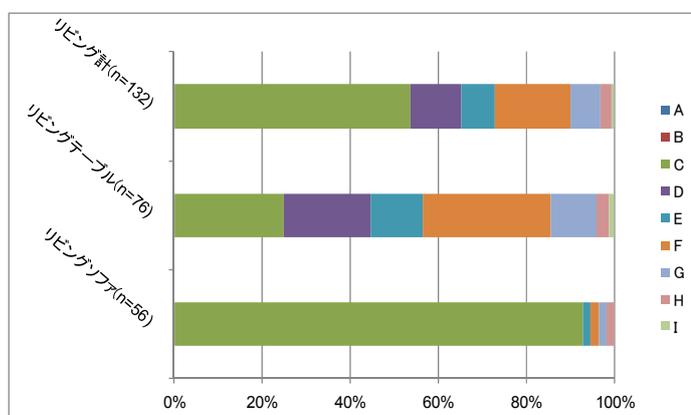


図2 グループホーム藤川(休日)におけるリビングでの過ごし方

ほとんど自由時間の時間がなく、食堂にいる時間も短い。

そのため、食堂に滞在しているというより、通り過ぎる、または一時的にいるといった状態のようである。

休日のグループホーム第三藤川では、食堂での過ごし方として最も多いのは、テレビを見るという行動である。特に、リビングでは70%以上の入居者がテレビを見ている(図4)。次に、リビングを、テーブル部分とソファ部分に分けてグラフ化した。すると、ソファに座った人は、90%がテレビを見て過ごしている。つまり、ソファに座る人は、テレビを見るために座っていると考えられる。一方、ソファ以外のリビングを示すテーブル付近では、40%ほどが、テレビを見る以外の行動をとっている(図5)。

平日のグループホーム第三藤川でも、同様にテレビを見るという行動が最も多い。リビング部分ではテレビ以外にも4種類の行動があったが、ダイニング部分はテレビを見る、または薬を飲む、保湿クリームを塗るなどのボディケアの2種類の行動しか見られなかった。リビングにおける行動も、休日と比較すると、行動の種類が少なく、休日よりも自由時間が少ないために、遊びの行動がなく、洗濯物をたたむなどの必要な行動が目立っている。グループホーム第三藤川では、休日においても平日においても、ダイニング部分よりもリビング部分に集まる傾向がある。行動の多くが、テレビを見るであったことから、テレビを見やすいリビングに人が集中したと考えられる。

どちらのグループホームにおいても、平日の自由時間は、生活に必要な作業が多かったため、

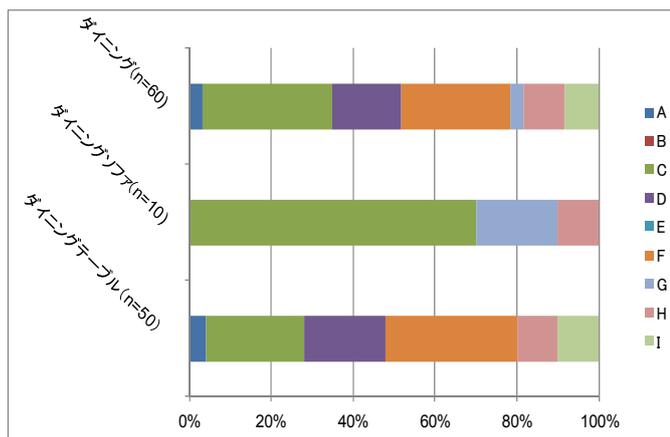


図3 グループホーム藤川(休日)におけるダイニングでの過ごし方

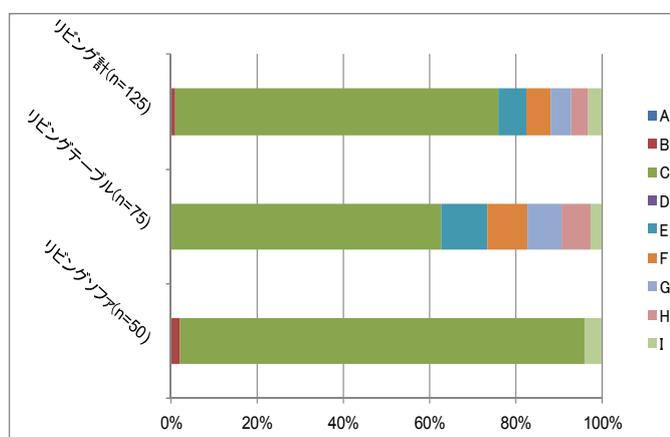


図4 グループホーム第三藤川(休日)における食堂での過ごし方

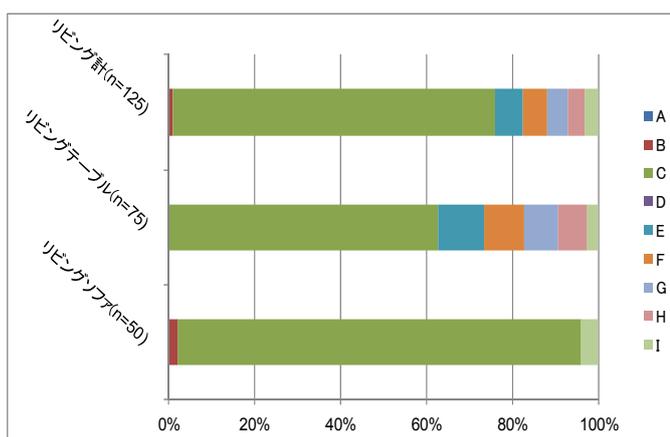


図5 グループホーム第三藤川(休日)におけるリビングでの過ごし方

休日の自由時間を比較した。どちらのグループホームにおいても、自由時間内はダイニングよりもリビングに集まる傾向が見られた。また、どちらのグループホームでも、リビングのソファ部分では90%がテレビを見て過ごしており、テレビが正面にあるため、ソファはテレビを見るために使われていることがわかった。

グループホーム藤川では、ソファのテーブル部分や、ダイニングのテーブル部分では、テレビを見る行動よりも、文字を書く、パズル・ぬり絵をする行動が多く見られた。グループホーム藤川では、テレビが見やすいソファ部分ではテレビを見て、文字を書く作業や、ぬり絵などは、その行動に適したテーブルで行われており、行動によって、よりふさわしい場所を選んで過ごしている様子がうかがえた。

一方、グループホーム第三藤川では、ダイニングにおいても、60%近くがテレビを見るという行動であった。グループホーム第三藤川では、テレビを見たいが、リビングが狭いためダイニングでテレビを見ている入居者がいる可能性が高い。グループホーム第三藤川のリビングは、入居者全員がくつろぐことができるだけの十分な広さが確保されていないといえる。

グループホーム藤川とグループホーム第三藤川の行動を比較すると、グループホーム藤川では、テレビを見る以外の行動が全体の半分以上を占めているのに対し、グループホーム第三藤川では、テレビを見る行動は大半を占めている。グループホーム藤川は、開設から9年経っているのに対し、グループホーム第三藤川は、開設から1年半しか経っていない。グループホーム第三藤川の入居者は、施設で「与えられる生活」に慣れており、まだ自発性にかけるために、自由時間の過ごし方が、テレビを見るなどの受身の行動が多いと考えられる。

#### 4.3 居場所のグラフ化と分析

どの場所に多く人が集まるかを調べることを目的とし、入居者の居場所を集計した。

##### (1) 対象とする時間

集計した時間は、調査時間すべてを対象とし、入居者の居場所を調べた。居場所の表記は、キッチン、ダイニング、リビングをまとめて「食堂+台所」、入居者の自室を「居室」、洗面所、脱衣室、浴室、トイレをまとめて「共有設備」、廊下と階段をまとめて「廊下」、畑を含む外の敷地内を「庭」とした。ただし、グループホームにいるときの居場所を調査することを目的としたため、外出時間は除いている。

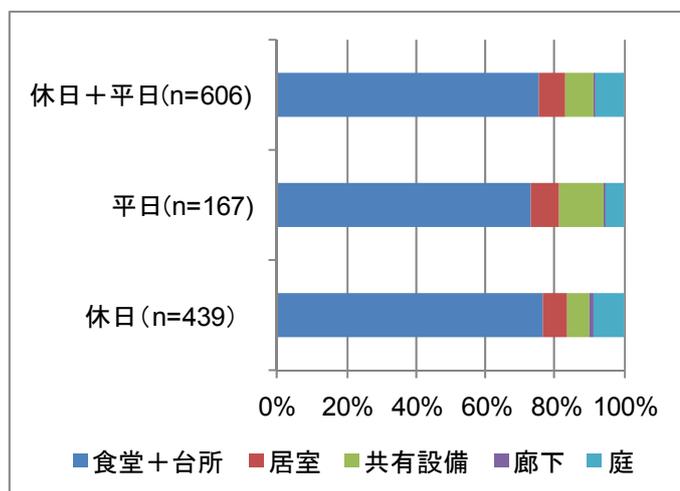


図6 グループホーム第三藤川入居者の居場所

## (2) 居場所の分析

どちらのグループホームも、70%以上が「食堂+台所」で過ごしており、「食堂+台所」が、入居者にとって重要な場所であることがわかった。

グループホーム第三藤川は、グループホーム藤川と比べると、「廊下」にいる率が高いことが特徴である。これは、夜の入浴後に洗濯をし、廊下で洗濯物をハンガーにかけているからである。グループホーム第三藤川では、「廊下」を通り

道としてだけではなく、空間として活用していることがわかった(図6)。一方、グループホーム藤川では、洗濯物を朝に庭で干すため、グループホーム第三藤川と比較して、「庭」での滞在時間が長いことが特徴である(図7)。

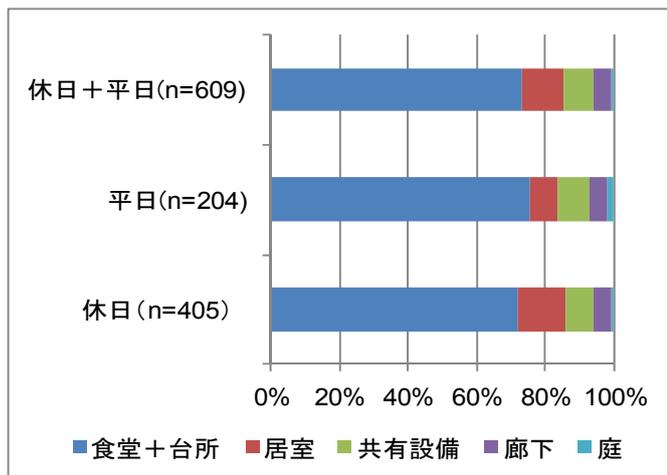


図7 グループホーム藤川入居者の居場所

## 5. まとめ

グループホームでは、入居者は食堂に集まる傾向があることがわかった。食堂及び台所は、食事や、食事の準備だけでなく、テレビを見る、パズルをするなど、自由時間をくつろぐためにも活用されている。特に、リビングでは、多くの入居者が集まり、テレビを見ることを通して、コミュニケーションをとっている。そのため、リビングは入居者全員が入れるだけのスペースを確保するべきである。

施設からグループホームに移った入居者は、自発性にかける傾向があるため、自らの生活に興味を持たせる工夫が必要である。食事や食事の準備に興味を持つことは、自らの生活に目を向けるきっかけになる。よって、食堂と台所の構造は、グループホーム第三藤川のように、双方から様子が見える配置にすると、入居者が、食事や、食事の準備に興味を持てる効果を生むことがわかった。

## 参考文献

- 1) 厚生労働省：「知的障害児(者)基礎調査」, 2005
- 2) 厚生労働省：「平成23年度障害者白書」, 2011